



アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 1 / 2006 年 1 月

研専運営会議での決定を受けて、今回から、信学技報の最後のページに、「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」を掲載することになりました。このページの有効利用については、今後検討を進めて参りますが、取りあえず第 1 回目として、アンテナ・伝播研究専門委員会（以下、AP 研と略す）の概要についてお知らせします。

【1】AP 研の発足

AP 研は、下記のように、アンテナ研究専門委員会と電波伝播研究専門委員会が合体して 1966 年 4 月 1 日に発足しました。

- ・ 1954 年 4 月 1 日： アンテナ研究専門委員会発足
- ・ 1956 年 11 月 1 日： 電波伝播研究専門委員会発足
- ・ 1966 年 4 月 1 日： アンテナ・伝播研究専門委員会（AP 研）発足

1966 年 4 月 1 日の発足以来、来年 4 月 1 日で 40 周年を迎えます。発足 40 周年を記念して、AP 研では、

- ・ 信学技報のアーカイブ
- ・ AP 関連論文特集号のアーカイブ
- ・ 記念講演会

などのイベントを行おうと企画しております。更なるご提案がありましたら、AP 研執行部

(ap_ac-chair@mail.ieice.org) までコメントをお寄せ下さい。

なお、老婆心ながら、研究専門委員会の名称である「アンテナ・伝播」は固有名詞として用いており、技術用語としては、「アンテナ・伝搬」を用いるのが通例です。

【2】AP 研のロゴマーク

本ページの最初にあるロゴマークが AP 研のロゴマークです。これは、AP 研の A と P の文字を飾り文字で表したもので、「アンテナは触覚」という意味を含めて、A に 2 本の触覚を付けたものです。

【3】AP 研の信学技報の購読者数

2005 年 11 月末現在の AP 研の信学技報の購読者数は 412 人です。2005 年総合大会及びソサイエティ大会における AP 研関連の発表件数が各々 339 件と 302 件であること、また、2004 年度 1 年間の AP 研の延べ参加者数が 1,271 人であることを考えると、信学技報の購読者数はもっと多くても良いはずだと考えています。研究会活動を支えるためにも、1 人でも多くの方の信学技報の購読をお願いします。

【4】AP 研 2006 年度実施計画

開催日	開催場所	テーマ	備考
4月20日(木)	東北大	一般	IEEE AP-S と共催
5月18日(木) 5月19日(金)	鹿児島	衛星関連および 一般	IEEE AP-S, URSI-F と共催 SAT 研と併催
6月22日(木)	機械振興会館	一般	IEEE AP-S と共催 専門委員会、顧問会
7月6日(木) 7月7日(金)	広島工大	衛星関連および 一般	IEEE AP-S, URSI-F と共催 SAT 研と併催
8月24日(木)	朱鷺メッセ	一般	IEEE AP-S と共催 ISAP'07 委員会
9月7日(木)	東京	一般	IEEE AP-S と共催
9月23日(土) 9月24日(日)	KJJG2006@金沢		
10月19日(木) 10月20日(金)	京大	一般	IEEE AP-S URSI-F と共催
11月	休会 (ISAP2006開催 11/1-11/4 @Singapore のため)		
12月14日(木)	機械振興会館	一般	IEEE AP-S と共催 専門委員会、顧問会
1月25日(木) 1月26日(金)	福井大	一般	IEEE AP-S、 URSI-F と共催
2月15日(木)	網走	一般	IEEE AP-S と共催
3月8日(木) 3月9日(金)	台湾(台北)	一般	IEEE AP-S と共催

【5】AP 研副委員長の戯言

(その1) 例年11月も終わりに近づき各地に雪が降り始める頃になると、出張で東京へ行ったときには必ず「福井は雪で大変でしょうね」と言われる。そのときは常に、「いや、福井は、新潟や富山と違いあまり雪は降らないですよ。ひと冬に3~4回程度、まあ多くても20cm程度の積雪で、降ってもすぐに消えますよ。」と反抗気味に答えていたのだが、今年は12月3日の初雪以降、積雪量は68cmを超え、半端じゃない。これでは、「福井は雪で大変でしょうね」と言われても、言い返せないと嘆いている毎日である。

(その2) 第1回目の「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」の担当を任されて、上記のお知らせを書きました。幹事連中にうまく乗せられた感はありますが、「まあ日頃の借りを返す意味でいいとするか」と自己を納得させています。でも、上記の「AP 研 2006 年度実施計画」を見てお気づきだと思いますが、開催場所を選定する幹事連中の意図が明確に伝わってくると思いませんか？是非、来年度は、日本にこだわらずアジアをはじめとする世界各地でお会いしましょう！



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 堀俊和 (福井大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org